

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500102		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホームいこい		
所在地	高知県高岡郡中土佐町久礼5988番地		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 21 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が出来ることは自分で行って頂き、出来ないこともすぐに手伝うのではなく、本人が出来るような形にし、やりたいことを職員と一緒に考え外出や活動、日常的な仕事ができるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3992500102-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 9 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『憩い』～安心、安楽、安住の我が家～の理念に基づき、利用者の要望に答えるスムーズなケアを目指している。施設内は、清潔で広々として利用者の表情も明るい。施設の周りは自然が豊かで、近隣への散歩、少し足を延ばしてドライブに行くなど、利用者のフラストレーションが溜まらない工夫をしていて、ゆとりある生活が少しでもできる心配りとなっていた。セラピー的な取り組みもされており、利用者の心の癒し効果にも役立っていて、利用者の笑顔で悟らせて頂いた。敷地内に系列の大規模な施設もあり、災害等に対する協力体制もグループだけに連携が柔軟で、同様に系列病院との医療連携も充実され、地域にとっても安心できる要因となっている。地域との交流は町内会の行事参加や保育園のボランティアの受け入れ等もコロナの状況を考慮し、徐々に再開できるようにアクションを起こしながら利用者の歓び姿を期待している。理念に基づいた毎年の事業計画の徹底を行い、「利用者に喜んで頂きたい」との職員の熱い思いが、当たり前に出るくらい同調され、利用者目線に合わせたケアに、この地域の人々だけでなく、憩える自然とが息を合わせるように、利用者の安堵感を満ち溢れさせていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の利用者に対して安心して過ごせるように、理念に基づいた個別ケアを行っている。	グループホームの理念は事務所に掲示し、職員が目につくようにしている。'安心、安楽、安住の我が家'という理念を念頭に置き、毎日のケアに臨んでいる。	理念を更に浸透させ、外部にも広める工夫をすることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田役への参加、地域の清掃活動、防災訓練時に地域の方々にも参加していただいている。また芋の苗植え、芋掘り、行事ごとを近隣の保育園、小学校、ボランティアと一緒にやっている。	地域の清掃への参加、地域住民参加の防災訓練など、コロナ禍ではあるが交流は出来ている。近隣の学校との交流や、ボランティアの受け入れも、コロナの状況を見ながら、徐々に再開しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活動としては取り組んでいませんが、入居相談に来られた方に、自宅での支援の方法などをアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、サービスの実施報告、取り組み状況等を報告し意見、アイデアをもらい運営に活かしている。	役所1名、民生委員1名、社協会長、家族が参加して対面で行っている。利用者の状況報告、施設の活動報告、地域状況などについて、話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時などで事業所の実情を話し、ケアサービスの取り組みに活かしている。過去には町と一緒に困難事例に対して協力して取り組んだ。	窓口は管理者がしている。役所の紹介で虐待防止に関する研修を大学の先生を招き、参加した。電話での連絡が多く、丁寧な対応を行政はしてくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一回、身体拘束適正化委員会を開催し、その後、どのような行為が身体拘束、不適切なケアに当たるか検討をしながら研修を行っている。	身体拘束はしていない。定期的に身体拘束適正委員会は行われている。実際の事例をもとに職員間で話し合い、再発防止に努めている。虐待防止に関する研修を、行政の紹介で大学の先生をお招きし参加した。安住できるようにスピーチロックにも気をつけ、ケアするように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会、開催時に虐待についても話をしている。研修を年に2回行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を1名の方が利用している。職員に対して、それぞれの事業、制度の説明を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、御家族に説明している。また利用を開始してからも疑問があればその都度、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に第三者委員など相談機関の説明をし相談機関を見やすい位置に提示し、連絡先を事業所便りに載せている。また家族から具体的な要望等が聴かれたら職員間で情報を共有している。	外部の相談機関の情報を事業所だよりに載せるなど、家族が相談できる機会の提供をしている。利用者の希望や家族からの要望は、担当者会議に持ち込み、職員で話し合っている。情報はシートにまとめ、職員は回覧して情報の共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画を基に職員の意見を聞き、その年の運営に反映させている。	定期的に個人面談を行い、意見を聞く機会を設けている。管理者と職員が、交換ノートをしており、相談しやすい体制ができている。管理者は可能な限り即座に対応する姿がみられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の適正を見極め、業務の役割分担を決め職員のチーム力が生かせるような体制作りを進めています。また家庭の事情などに応じて勤務シフトを決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での介護技術研修、内部研修、県社協や自治体が主催している外部研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームの管理者が集まり、運営の仕方などについて話し合いをする機会や、中土佐町の事業所が集まって、虐待防止について話し合う研修に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	世間話をしながら、本人の要望などを聞き取りつつサービスを導入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの視点で見た本人の問題点を聴き、本人、御家族にとって調和のとれたサービスを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時より、家族や利用者の意見を聴き、介護保険、介護保険外の利用できるサービスを説明し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者が共に生活していることを意識し掃除、洗濯、草引きなど協力して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を絶たないよう、相談や報告をし、衣類の衣替えやパットなどの購入、病院受診、法要などの対応は家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策の一環で、面会の回数を控えてもらうことが多かったですが、今年度に入ってから、面会制限を行っておらず、家族知人が遊びに来てくれています。	面会は対面で行っており、面会人数は徐々に増えている。外にいつもいる猫がいて、えさを与えたり、可愛がって、利用者の癒しとなっている。施設の庭で、日向ぼっこをして、寛ぐ姿が見られ、のどかなじみの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者さんの好みを聴き、草引きやレクリエーション等の活動を通じてコミュニケーションが取れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも、気軽に相談に来て下さいね。と家族に声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、本人家族の意向を確認し事業所の判断でできる範囲は希望、意向に沿った対応が出来るようにしている。	日常の生活の中で、職員は利用者一人一人の様子を細やかに観察し、思いをくみ取るようにしている。インスタントラーメンが食べたいとの利用者からの希望をかなえ、好評だった。利用者や家族からの意向に基づいたケアプランに可能な限り近づけるように、職員は努めている姿が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などを活用し本人から、話を聴いたり、家族や以前担当していたケアマネジャーに話を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活スタイルを把握し画一的なサービスにならないように取り組んでいる。利用者の言動により、身体機能・精神面の理解、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを第一に計画を作成し面会時などに御家族の意見を聴き反映できるようにしている。また、職員の意見もミーティングで聴き反映できるように努めている。	介護計画は入所後1か月、その後は半年単位で見直しをしている。体調変化があった場合には、その都度見直している。介護計画作成時は、職員、看護師、家族の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者別に生活記録を記録し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のニーズに合わせて柔軟な対応ができるように自治体などにも意見を聞いて運営に反映させている。遠方に住まわれている家族に変わって通院介助や体調不良時の病院受診を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生、保育園児などとの交流を持ち併設施設での行事にも参加している。運営推進会議などで利用できる地域資源についての話し合いも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族希望の病院を受診している。御家族を通じて病院との情報交換を行ったり、状態によっては、職員が受診に付き添いし説明を行っている。	協力医の定期的な往診がある。以前からのかかりつけの病院を希望する利用者は、家族に受診に付き添って頂いている。歯科は必要な際に往診に来て頂き、口腔ケアは職員がしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所の看護師と連携をとりお互いに相談しながら利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院と連絡を取り合い情報交換を行い、お互いに相談し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、本人に看取りの指針をもとに、グループホームで出来ること出来ないことの説明を行い、協力病院と連携できる体制を整えている。	看取りをする体制はできている。入居時に重要事項説明書で家族には説明しているが、重度化の際には再度、家族の意向を確認している。協力医との連携もできていて、相談しやすく安心できる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修、外部研修に参加し緊急時に対応できるようにしている。また緊急時のマニュアルを見える所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回、地震津波避難訓練を年2回、風水害避難訓練を年1回行っている。併設施設が災害時の避難所になっている為、訓練は併設施設と合同で行っている。非常食の多くは併設施設で保管している。	訓練は昼夜想定で行っている。停電対策は今のところ特にしていない。BCPの策定に関しては母体の施設とともに検討作成中。避難訓練は併設施設を避難場所として利用者参加で行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者から、見えないように排泄や入浴、着替えなどを行い、何か失敗しても自信を無くすような声掛け、対応はせず、人権を尊重した対応を心がけている。	苗字にさん付けで呼んでいる。スピーチロックにも気をつけ、管理者が気づいた時には、即座に職員に注意して指導している。排泄失敗時には、さりげなく声掛けをして、対応し、利用者の尊厳に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の気分によって入浴ができたり、必要物品が無くなったら買物に出かけている。日常生活の中でも最終的な決定は利用者の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや生活リズムを尊重し、職員のペースではなく、その日の希望に沿って生活できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している人は、お化粧をしたり、屋外に出る時は、よそ行きのふくそうに		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に手伝ってもらいながら食事作りや片づけを行い、利用者の希望を聴きながらメニューを作っている。	食事後の食器の返却など簡単な作業は利用者が行っている。調理は職員が手作りでやっている。利用者の希望を聞いてメニューに反映することもある。インスタントラーメンを出して、好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し管理している。食事の状態も、利用者個々の摂取状態を把握し食べやすい形態にしたり、食べる量を見極め提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施している。現在は自分で出来る方ばかりなので声掛けにて歯磨きを行っている。義歯を洗浄液につけることは職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でパット等交換できる方は、声掛けしトイレに行きませんかと勧めている。	担当者が個々の利用者の排泄時間や傾向を把握し、その場に応じて言葉掛けをして対応している。異臭対策はこまめな掃除で清潔な環境づくりに努めている。ポータブルトイレの利用者はなし。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維の多い食材を取り入れたり、運動等をし便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度、入浴できる時間は決まっていますが本人のその日の気分に合わせて入浴できるように臨機応変に対応している。	入浴は週2～3回行っている。夏場は比較的涼しい午前中に入浴して頂くようにしている。入浴を嫌がる方は職員が言葉がけなど工夫して無理強いはないようにし、どうしても嫌がる方は、ご家族の協力を得て入浴して頂いている。浴槽の湯はシャワーを利用して循環させている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に寝れるよう空調や明かりの調節をしている。日中、眠気が強い方は、ベットで横になれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で貰う内服薬に関する書類をファイルに綴じている。また、主治医・看護師に内服薬について話を聞いたり、内服薬の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草引きや食器洗いや簡単な調理など本人の出来ること、やりたいことを共同で行っている。自分の好きな花や野菜の苗を買ってきて職員と協力して植えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策の一環から敷地外に出る外出は、ほとんどできてませんが、敷地内の散歩、外気浴を行っている。職員では対応できない要望の時は、ご家族さんに対応してもらっている。	近隣へのドライブをコロナ感染対策をした上で再開し、利用者の自宅近辺に行くこともある。散歩も行い近隣の方と挨拶を交わす関係ができています。敷地内の庭で日光浴を楽しむこともある。コロナ収束後は、さらに外出する機会を増やし、地域の行事にも参加していく方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金を利用しいつでも現金を利用できるようにしている。また自分で管理出来る方は現金を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をしたり、手紙を出したり出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんに合わせて室温や照明をコントロールしており、テーブル、ソファの配置も利用者の意見を反映させている。	利用者の希望で定期的に席替えを行っている。共用ゾーンは照明も多く明るい。壁際に三人がけのベンチで寛ぐ二人の利用者が仲良く居眠りをして穏やかな空気となっていた。掲示物が少なく壁面はすっきりとした印象を受けた。	利用者が室内でも四季を感じられる工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファ、テーブルがあり利用者が思い思いの場所に座りコミュニケーションを取られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談しながら本人が過ごしやすいように使い慣れたものを持って来たり、新しく購入したりしてる。	お位牌、仏壇を持って来て毎朝、手を合わせる利用者がいる。ベッド、カーテン、エアコンは備え付け。家具等馴染みのものを持ち込み、落ち着ける空間となっている。カーテンは毎日職員が開けて朝日を浴びて規則正しい生活ができるようにしている。エアコン調整で温度管理も出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるように、動線を確保しており、トイレも解りやすいように大きく便所と書いている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				